

福島県ヤングケアラー実態調査 調査結果（速報）の概要

目的：本県におけるヤングケアラーの状況を把握し、ヤングケアラーに対する必要な支援策を検討する。
 方法：質問紙による調査（学校において回答）
 調査期間：令和4年9月21日～11月10日
 調査対象：県内の小学校5～6年生、中学生、高校生（全日制、定時制、通信制）
 ※ 回答者の内、「家族の中に自分がお世話をしているものがある」と回答したものを集計対象とした。

表1 回答率

学校種別	対象者	回答数	回答率
小学校	28,972	24,856	85.8%
中学校	45,543	39,242	86.2%
高校（全日）	43,092	37,666	87.4%
高校（定時・通信）	1,471	607	41.3%
合計	119,078	102,371	85.9%

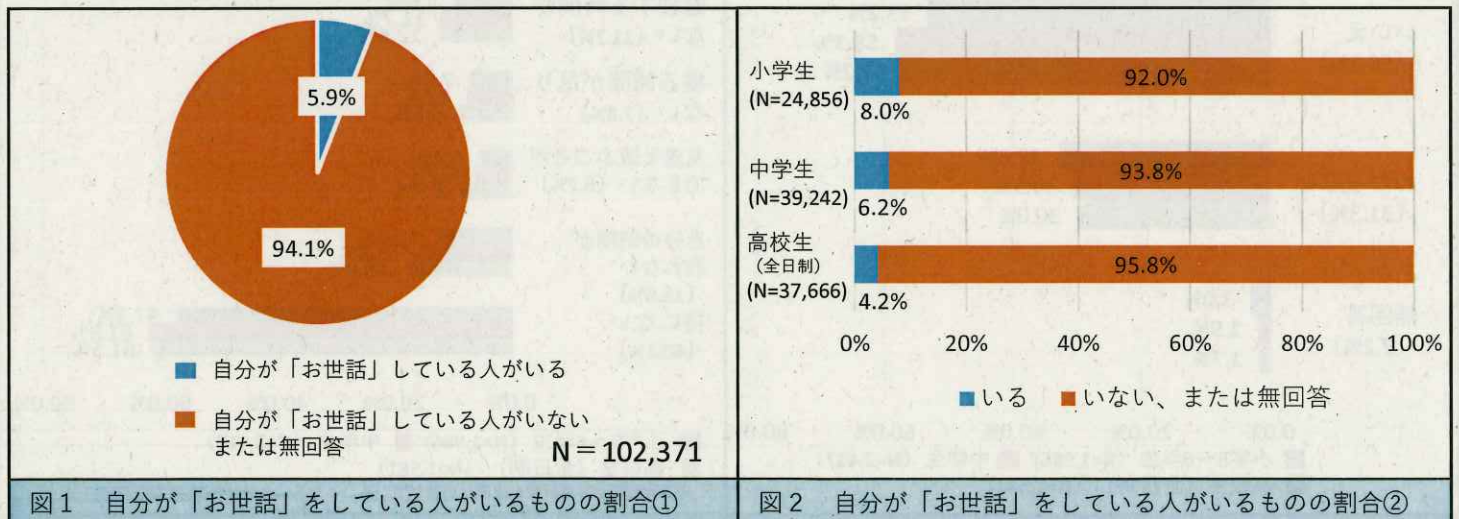
表2 「お世話」をしている人がいると回答したものの割合

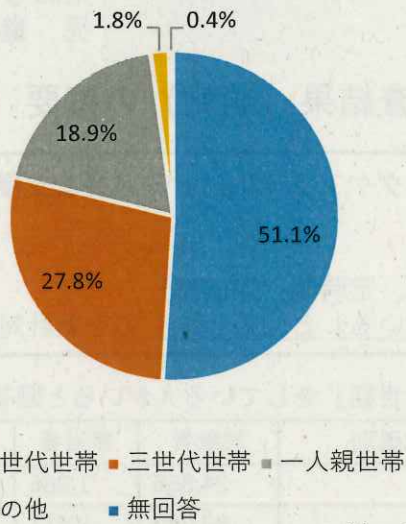
学校種別	対象者	該当者	割合
小学校	24,856	1,986	8.0%
中学校	39,242	2,417	6.2%
高校（全日）	37,666	1,581	4.2%
高校（定時・通信）	607	65	10.7%
合計	102,371	6,049	5.9%

（結果の概要）

- ・ 回答率（表1）は全体で85%を越える高い割合となっており、本調査の目的であるヤングケアラーの現状の把握を行うことができたと考えられる。
- ・ 「お世話」をしているものがあると回答した割合（表2、図1・2）は**5.9%**であり、国調査（R2・R3の全対象者に対する割合：5.7%）と概ね同様の割合であった。
- ・ 世帯区分（図3）については、三世帯世帯が27.8%と国調査と比較して高く（国R2・3調査の平均：18.0%）、祖父母のお世話をしているものも23.8%と国調査より高かった（国R2・3調査の平均：17.3%）。
- ・ お世話の対象者（図4）は「弟・妹」が60.2%と最も多く、次いで「お母さん」「おばあさん」「お父さん」が高かった。
- ・ お世話の頻度（図5）は、国調査と同様に「ほぼ毎日」が46.2%と最も高く、次いで「週に3～5日」が高かった。
- ・ 平日1日当たりのお世話をする時間（図6）では、区分を詳細に分析したところ、「1時間以上2時間未満」の割合が27.9%と最も高く、次いで「2時間以上3時間未満」「3時間以上5時間未満」の回答の割合が高かった。
- ・ 自分がヤングケアラーであると思うか（図7）については、「はい」が10.4%であり、割合は国調査（国R2・3調査の平均：17.0%）と比べて低かった。
- ・ お世話をしていて困ったこと（図8）については、「特にない」が60.1%と最も高く、次いで「自分の時間が取れない」、「勉強する時間がない」、「寝る時間が足りない」等の回答が高い。特に、高校生では割合が高くなっていることから、年齢の高い児童が家庭の中の家事・介護を担いやすく、お世話による負担も感じやすい可能性が示唆される。
- ・ 上記から、本県においても家族の世話を担う子どもが一定数存在することが確認された。今後、年度内に詳細な結果について公表していく予定。
- ・ これらを踏まえ、お世話による負担が大きい子どもに対する「子どもの時間」を確保するため、令和5年度以降、子どもが相談しやすいSNS相談窓口の開設、訪問による家事・育児支援等の事業を順次実施していく。

○ 参考（各種グラフ）





N = 102,731

図3 集計対象者における世帯区分の割合

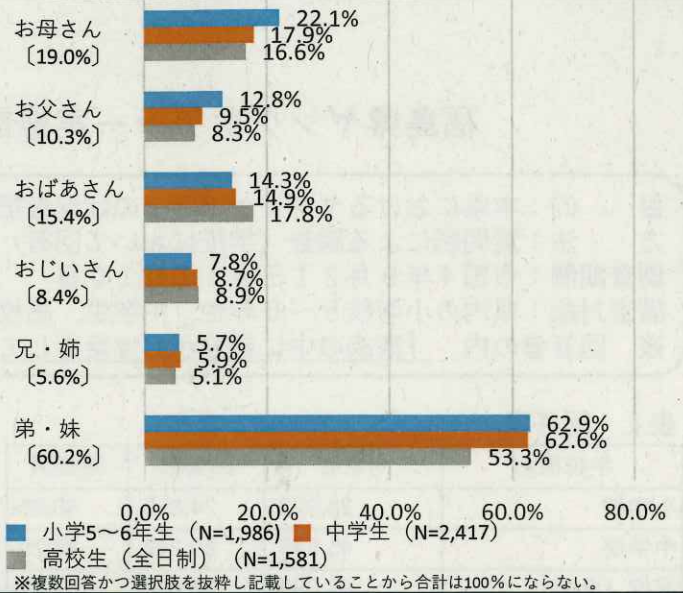


図4 お世話の対象者の内訳

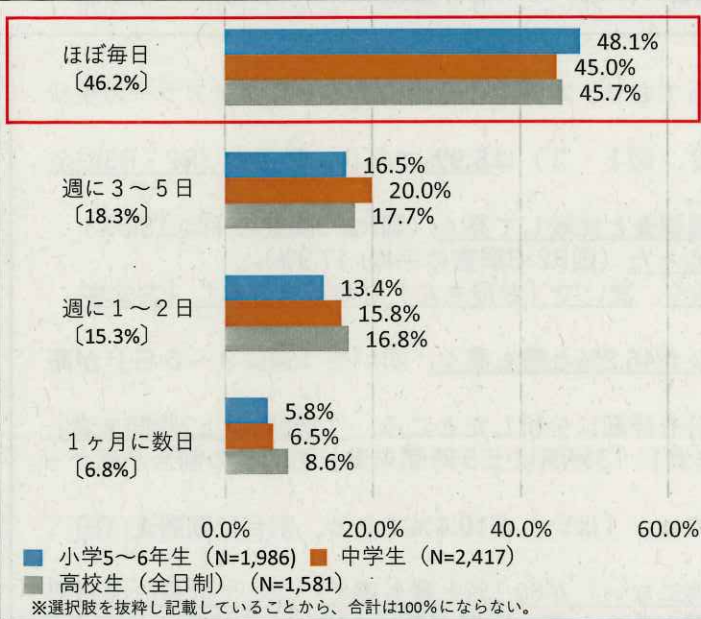


図5 お世話の頻度

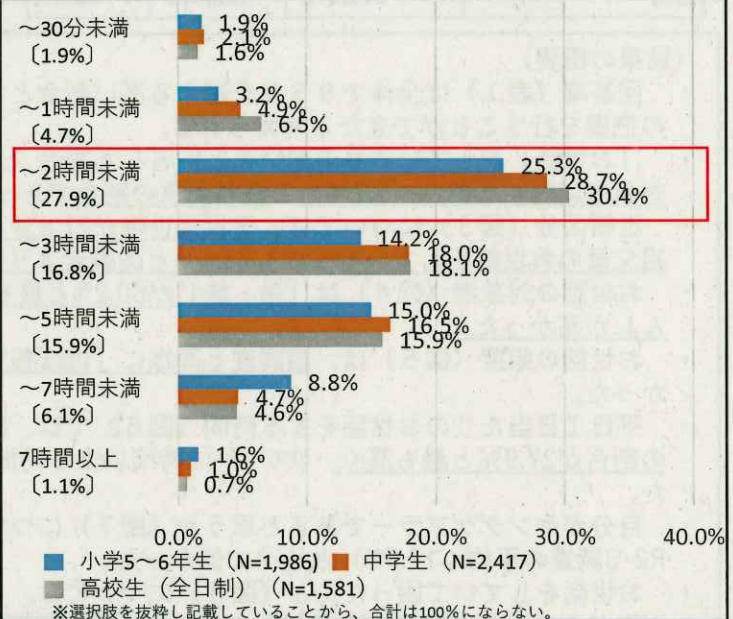


図6 平日1日当たりのお世話をする時間

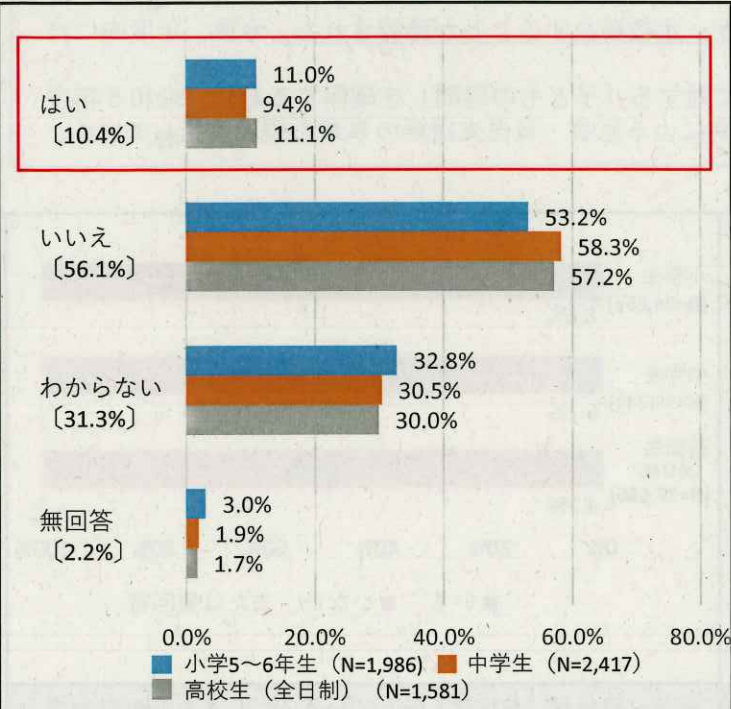


図7 自分がヤングケアラーであると思うか

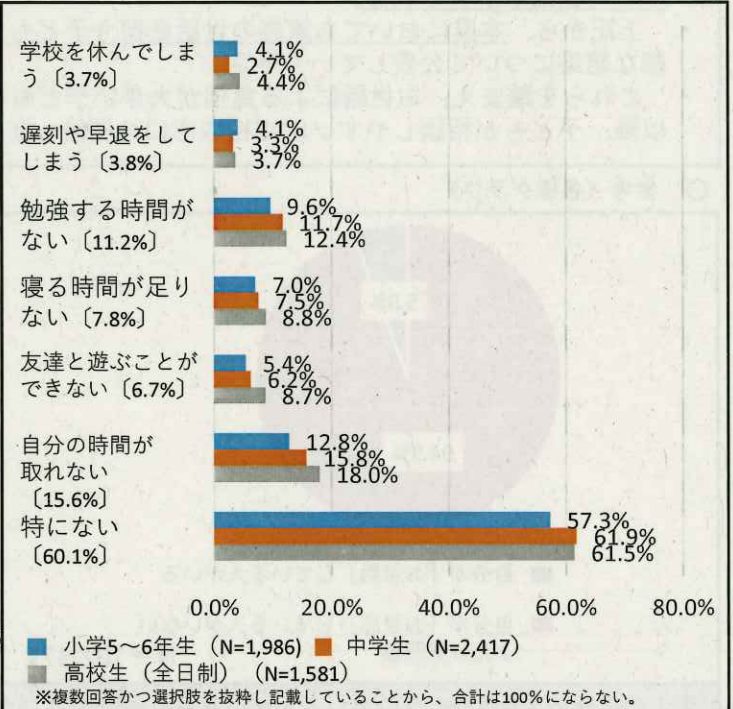


図8 お世話をしていて困ったこと